

# 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2991700017		
法人名	有限会社在宅介護サービス応援隊		
事業所名	グループホーム安堵園		
所在地	奈良県生駒郡安堵町西安堵570-1		
自己評価作成日	平成27年6月16日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2991700010-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2991700010-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成27年7月29日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

お一人お一人の自由を尊重し、他者との関わりを大切に安心して、くつろげる家の様に、快適に過ごして頂けるグループホームを目指しています。運営理念である御利用者お一人お一人の(自由)(自立)(尊厳)(繋がり)を大切に、常にご利用様に思いを寄せ日々精進していく所存です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人は、訪問介護事業をされており、当地に3年前グループホームを開設し、現在は通所介護、居宅介護支援、訪問介護と多角的に事業を展開している。「自由」「自立」「尊厳」「繋がり」の理念をもち、管理者は機会あるごとに理念に添ったケアについて話し、職員も理解し実践に繋げている。兼ねてよりの懸案であった「看取り介護」について、ようやく医療面での体制が整い、事業所内部の体制強化に力を入れているところである。グループホームを終の棲家と考える利用者、それに家族にとっては心強く、最後まで安心して暮らせるグループホームへと生まれ変わろうとしている。

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立、自由、尊厳、繋がりを理念とし、それに基づいて職員一人一人が考えて、行動しています。	「自由」「自立」「尊厳」「繋がり」を理念とし、毎月のケア会議で話し合うことで、職員は理念に添った個別ケアを理解し、実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩や施設周りの清掃、地域のクリーンキャンペーン等に参加して地域との交流を図る努力をしています。	自治会に加入し、掃除や草刈りなどに参加している。地域で行われる盆踊りや花見などには利用者も一緒に参加している。また地域ボランティアが訪問するなど地域との交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御家族様近隣の方々には機会がある都度、理解を促しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催により、利用状況行事等の報告をし、会議で提案いただいた意見をもとに、サービス向上に努めています。	2ヶ月に1回行政担当職員、地域包括支援センター職員、自治会役員、家族の参加を得て運営推進会議が行われている。前は報告などの他に「高齢者虐待」をテーマに勉強会を行った。	運営推進会議では勉強会を行うなど独自の取り組みをされており、参加していない家族にも開催ごとの議事録や勉強会資料を送り、会議へ関心を持ってもらい会議への参加につながればと期待する。地域の民生委員にも声をかけるなど、出席者を増やす工夫をされることを希望する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域福祉課、地域包括、社協が近隣にあり報告、連絡、相談できる環境作りに努めています。	事業所のすぐ近くに役場があり、地域包括支援センターや社会福祉協議会も役場内にあるので、連絡は密に取れる環境にある。また毎月役場3階で行われる勉強会に参加したり、生活保護の方を受け入れるなど協力関係もできている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや、話し合いの場を設け職員全員が、同じ考えの下、身体拘束をしないケアを実践しています。	玄関は施錠しているが、利用者が出たい時には職員が付き添い散歩や外気浴を支援している。管理者は、身体拘束をしないケアについて常に会議で話し、職員の理解を促し実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや、話し合いの場を設け職員全員が、同じ考えの下、虐待防止を徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内、職場外を通じて学習する機会や行政や関係機関と連携や相談を図れるように努めております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点や不安を聞くように努めています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでもご意見、ご要望があればすぐに、対応する様にしています。	家族来訪時には必ず声をかけ要望を聴くようにしている。意見箱を置いたり、苦情相談の窓口が他にもあることを伝えている。各利用者に担当の職員を決め言いやすいよう配慮している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレスや個別に話し合いし、意見や提案があればその都度聞き、対応する様にしています。	日常業務のなかで職員から意見を聞くことが多いが、毎月の会議でも疑問や提案が出され検討している。夜勤シフトの要望や洗剤の使用法など職員の意見を反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長との話し合いの場を持ち改善に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加やカンファレス等を通じて職員一人一人のスキルアップに取り組んでいます。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会への参加、研修のお知らせにより、参加の機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談等により話し合いの場を持ち、コミュニケーションに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族、御家族の思いを十分に聞き、困っている事や不安を取り除く努力をしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族の思いをしっかりと伺い、支援を行っています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お馴染みの関係が築ける様に努力しています。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と蜜に連絡を取り合い、御家族様の協力も得ながらケアをしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取りの支援や、面会等の支援を実施しています。	家族と外食や墓参りに行ったり、一緒に住んでいた孫に手紙を出したり、電話をしたりとこれまでの人や場との関係を大切にする支援が行われている。デイサービスを利用することで新しい馴染みの関係が生まれてきている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方、苦手な方がそれぞれにいますので、配慮しながら支援しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お気軽にご相談、必要性に応じた支援させて頂ける関係性の構築に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報やアセスメントにより、本人の望む生活の把握に、努めています。	基本情報や入居前の家庭訪問で得た情報を参考に、生活目標に重点を置いてアセスメントシートを作成し、思いや意向の把握に努めている。思いを言える方が多く、日常ではじっくり聴いたり連絡帳により把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やアセスメントにより、本人の望む生活の把握に、努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録等により、把握しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に御本人や御家族の意向を確認し、カンファレンス等を通して、ケアプランに反映しています。	基本情報、アセスメントシート、連絡帳を基に介護計画をたて家族に説明している。3か月毎に職員でカンファレンスを行い、6か月毎に見直しがされている。職員にも計画の見直しが理解できるようにモニタリングシートが工夫されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録やカンファレンス等を通して、情報を共有し、ケアプランに反映しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	おひとりおひとりに寄り添い、個々のニーズに出来るだけ応えられるように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御馴染みの地域の方々やボランティアの支援や地域のイベント等へ積極的に参加しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携機関による往診や受診、必要に応じセカンドオピニオンの活用により、適切な医療が受けられる様になっています。	2週間に1度協力医の往診があり、ハートランド信貴山デイケアで専門医の診察も受けることができる。受診結果を医療ファイルに記入し、家族には電話や来訪時に報告されている。通院は原則家族が行うが、職員が同行することもある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設内の看護師に相談出切る体制になっています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段より御家族様、病院関係者と報告、連絡、相談体制を密にとっており関係性の構図を図っております。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の当園の重要な課題と捉えて取り組んでいきたいと考えております。	8月から協力医が変わり、医療面での看取りの体制が整うので、職員研修など、事業所の体制整備に向けて緊急に取り組んでいるところである。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を通じてマニュアルによる確認や落ち着いて行動する様に促しています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害時の対策の確認や消化訓練、避難訓練を行い職員全員が対応出来る様になっていますが、より一層の努力をして参ります。	行政の防火・防災の研修を受講し、年に2回、利用者も参加して避難訓練を行っている。内1回は消防署の立ち合いで行っている。スプリンクラー、緊急通報装置も設置されており、米、水、缶詰などが備蓄されている。近くにコミュニティセンターがあり、大災害時はそこに避難するつもりである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮していますが、出来ていないところも散見している為、研修等を通じて一層の全職員への教育に取り組んでまいります。	理念の意味を職員は理解しており、入室時やトイレ誘導時の声かけ、入浴時の希望者に対する同性介助などプライバシーに配慮した支援がされている。更衣室横のトイレには内扉を付け、入浴介助時に直接トイレに行けるよう配慮している。書類は事務室の書庫に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら、思いを伝えやすいよう支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた支援を努力しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて衣替えやご本人に着たい服の選択や意向を尊重しています。また、2か月に1回、散髪に来て頂いています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力にあわせて役割をもって行って頂いています。	食事は職員が手作りの料理が提供されている。片付けを手伝う利用者や利用者同士の助け合いなど家庭的な雰囲気がある。誕生日にはリクエスト食を作り、楽しまれている。食前には大きな声で嚙下体操を行い、食後の歯磨きを進んでされる利用者もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理や塩分、カロリー、バランス等努力していますが、厳密なまでは行えていません。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態により、声かけや誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄を心掛けています。	昼間はトイレでの排泄を基本に考え、排泄パターンや利用者の様子を見てトイレ誘導している。夜間ポータブルトイレを使用される方もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動等により予防するようにしています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は職員が、決めています。	原則週2回、午後から入浴している。汚染時には夜間でも入浴することがある。ハートランド信貴山デイケアでの入浴を温泉に行くと、楽しみにされている利用者が多い。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間に活動量を増やすなど、生活リズムを見ながら、居室で休んで頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	密に主治医や薬局と報告、連絡、相談連携体制を図っており、薬の情報を職員全員で共有、理解に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域のイベントへの積極的な参加や出来るだけ個々の御利用者様に合わせご意向の確認をしながらご本人の意向を尊重した支援を行っています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のイベントへの積極的な参加や出来るだけ個々の御利用者様に合わせご意向の確認をしながらご本人の意向を尊重した支援を行っています。	週2回全員がハートランド信貴山デイケアを利用しており、これがよい外出の機会となっている。家族同伴の夕食や墓参り、地域行事の花見や盆踊りなどにも出かけている。花の水やりをされる方もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の御利用者に応じて、ご本人が安心感を持ってもらえる程度の小額な所持して頂くなどの支援を行っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からご本人への電話の取次ぎや発信、ご本人の手紙のやりとりなどに必要なハガキの手配やポストの投函等支援を行っています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画等は季節感を出す工夫をしています。	広さの違う3ヶ所のトイレは、身体状況で使い分けができ、浴室は清潔で広い。居間は食卓の他にソファやたみベンチを置いて、くつろげる空間も作られている。手造りの壁面飾りが季節感を出しており、七夕飾りの短冊には利用者の希望が書かれていた。長い廊下は歩行訓練に使われている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人が思い思いのままソファでテレビを見たり、畳でくつろぐ事も出来るように配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御馴染みや親しみのある物に囲まれて安心して過ごして頂ける様に努めています。	居室入口の短いれんはピンクで統一され、介護用ベッドが設置されている。タンス、椅子、テレビなど必要な物を持ち込み、カーテンも自由に取付けて、それぞれの好みの部屋作りがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人に合わせて職員の見守りや支援による配膳や下膳、花の水遣り等の役割りを持って安心安全に過ごして頂ける様に努めています。		